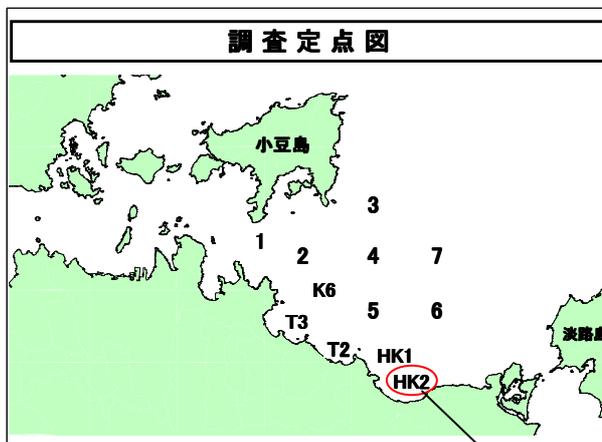


カタクチイワシ卵稚仔出現状況 (2013. 6-2号)

香川県水産試験場 益井
TEL: 087-843-6511

調査日: 2013年6月18日
調査方法: 丸特ネットによる鉛直曳
調査定点: 播磨灘11定点+臨時調査1定点(右図)



臨時調査点

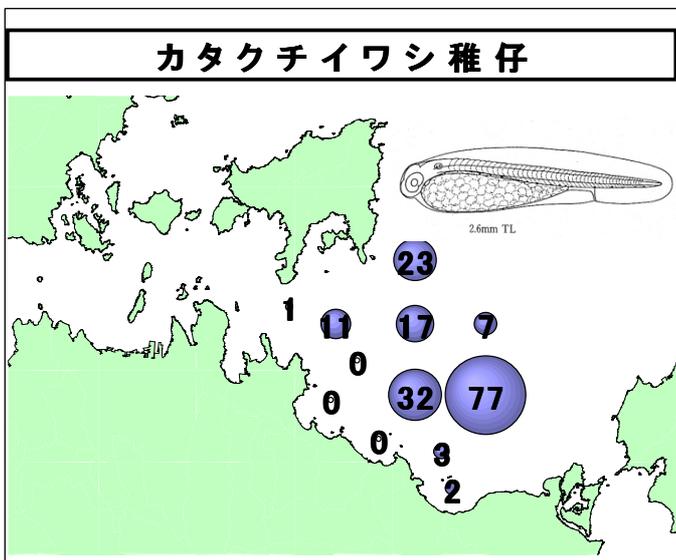
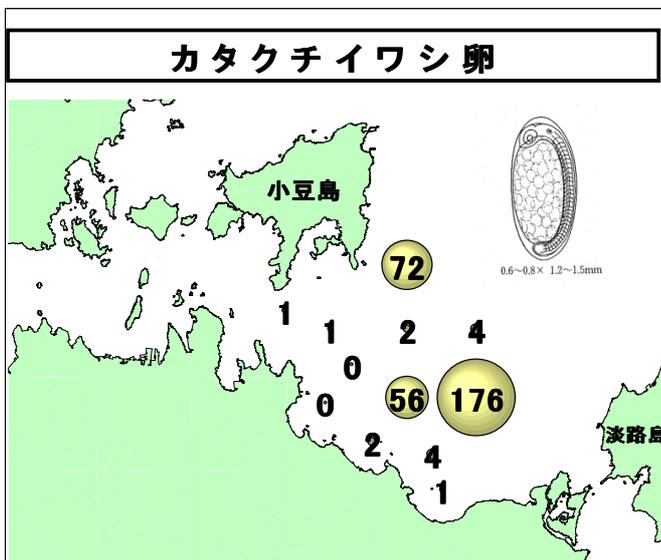
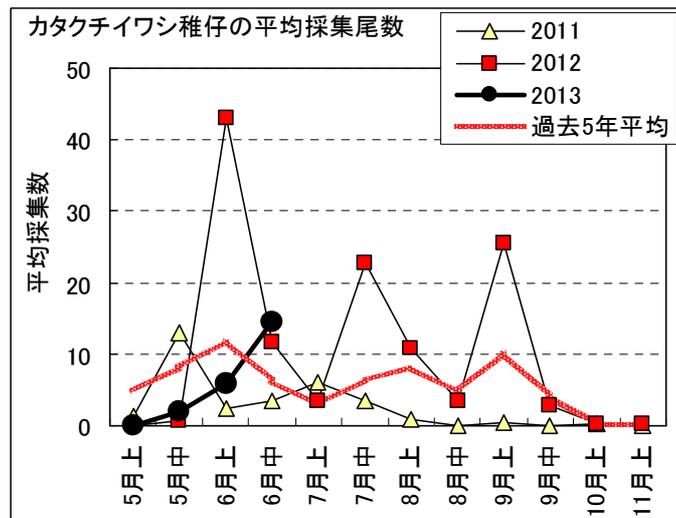
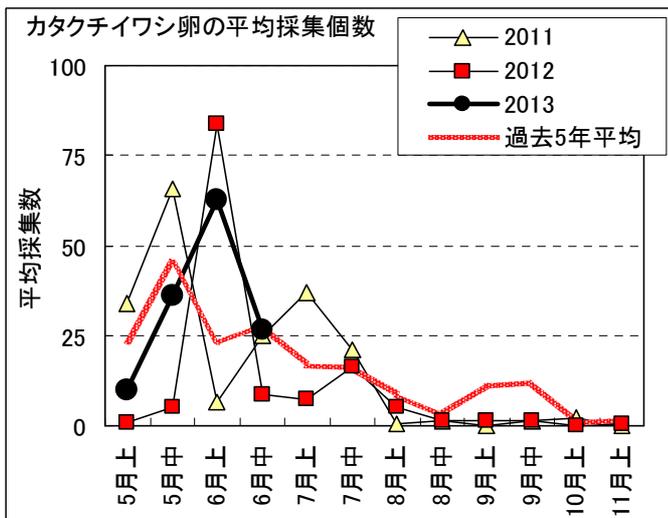
【カタクチ卵】 定点別出現数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.6.15	2	29	27	6	10	56	21	115	-	1	1	4	24.7
2012.6.21	3	1	14	4	8	30	26	5	-	1	0	4	8.7
2013.6.18	1	1	72	2	56	176	4	4	1	2	0	0	28.9

【カタクチ稚仔】 定点別出現尾数

年 定点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	HK1	HK2	T2	T3	K6	11点平均値
2011.6.15	0	1	12	5	8	2	1	4	-	3	1	0	3.4
2012.6.21	0	1	13	19	73	6	6	2	-	5	3	1	11.7
2013.6.18	1	11	23	17	32	77	7	3	2	0	0	0	15.5

- * 表中の「-」は未測定を表す。
- * 11点平均値: 臨時調査点を除く播磨灘11定点の平均値を表す。
- * グラフの値は、播磨灘11定点の平均値を表す。



播磨灘11定点における卵の平均出現数は約27個で、前年を上回り、平年(直近5年平均)と同水準でした。一方、稚仔の平均出現数は約14尾で、前年及び平年を上回りました。先月から引き続き、卵・稚仔ともに東寄りの調査点で多い傾向でした。

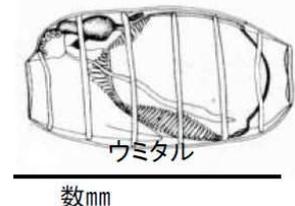
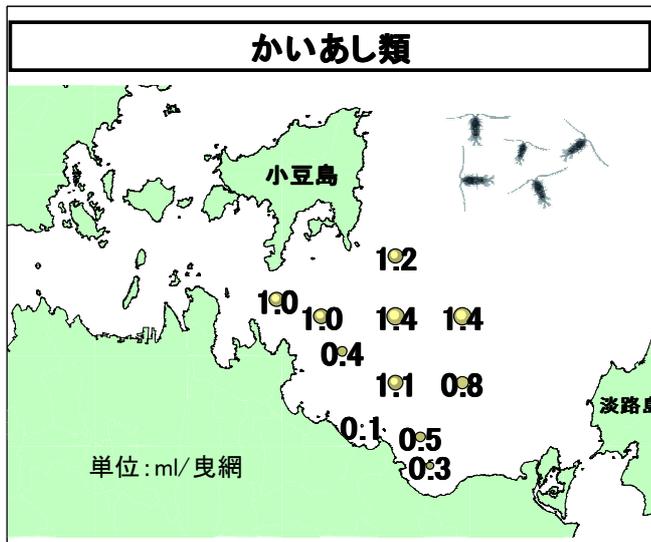
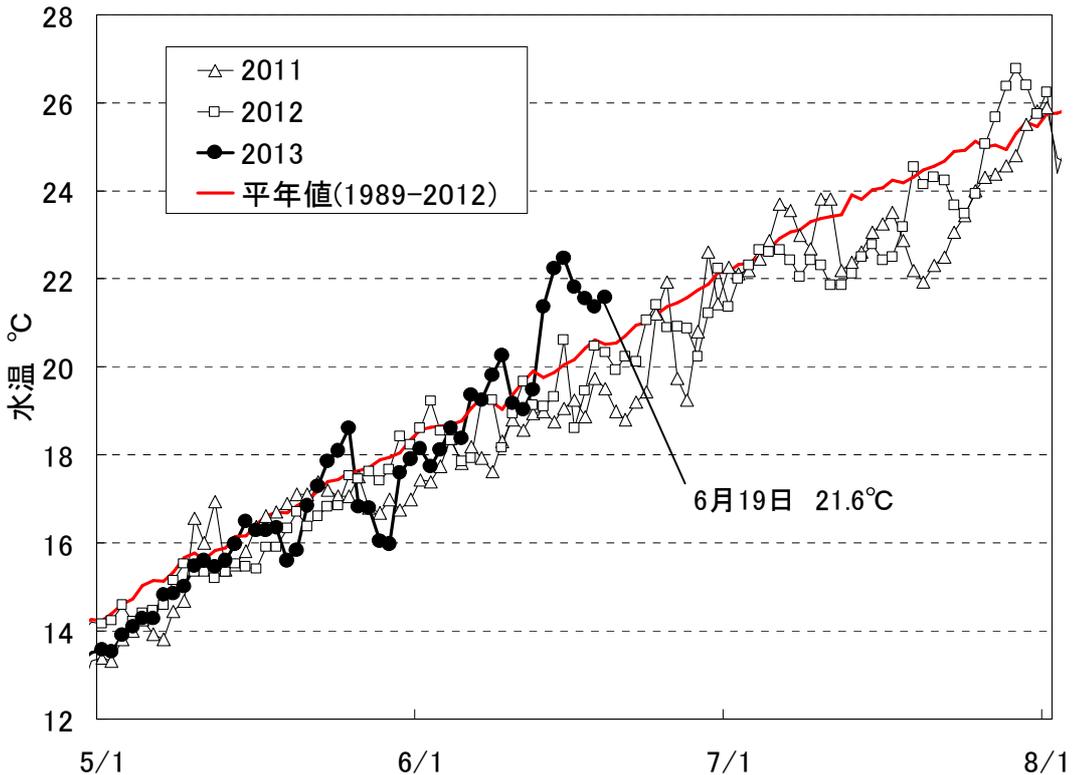
調査時、引田沖(HK1~⑤周辺)でカタクチイワシとみられる魚群が多数確認されました。

引田沖の水温は、6月中旬以降、気温上昇に伴い急激に上昇しており、平年より「著しく高め～やや高め」で推移しています。

プランクトンは、ノクテルカ(夜光虫)に混じってウミタル(寒天状のろ過摂食者で主に植物プランクトンを捕食)が増えてきています。餌料生物として重要なカイアシ類は前回より約20%減少しています。

【参考】

引田沖水温バイデータ(午前9時, 1.5m層)



※カタクチイワシ卵稚仔情報は、「水産試験場ホームページ」の「情報提供」の「カタクチイワシ卵稚仔速報」でも公開しています。
<http://www.pref.kagawa.jp/suisanshiken/>

※次回の調査は、7月1日に浅海定線調査に合わせて実施予定です。